

小児期の定期接種が終了したら、ワクチンを接種する機会が減少しますが、成人にもワクチンで予防できる病気があります。

今、**ライフコース予防接種**（生涯を通した予防接種）が注目されています。あなたに必要な予防接種を見直してみませんか。

ワクチン、予防接種とは

ワクチンとは、病気の原因になる病原体や細菌の毒素の病原性や毒性を弱くしたり無くしたりしたものです。

ワクチンを接種することを予防接種といいます。予防接種には、法律に基づいて市区町村が主体となって実施する「定期接種」、希望者が各自で受ける「任意接種」、この度の新型コロナウイルス感染症などの「臨時接種」があります。費用は、定期接種は原則公費です。任意接種は自己負担ですが、その必要性は定期接種と同じです。

ワクチンの役割は「個人を守る」と「社会を守る」

ワクチンで予防できる病気を**VPD**（vaccine preventable disease）と呼びます。

ワクチンには、VPD（表参照）から「個人を守る（個人防御）」と「社会を守る（社会防御）」の2つの役割があります。

ワクチンを接種するとその病気に対する免疫（抵抗力）が、あらかじめ体の中に作られ、実際に病原体が体に入ってきた時に、その人の感染症の発症あるいは重症化を予防することができます。

また、地域に住む多くの人々がワクチンを受けて免疫をもっていると、その集団の中に感染した人が出ても流行を抑えることができる「集団免疫効果」が発揮されます。

そして、持病などでワクチンを接種することができない人や妊婦を病気から守ることもつながるのです。



ワクチンの副反応

接種から数日間は発熱や接種部位などの症状が出ることがあります。まれではありますが、健康被害も起こりえます。予防接種によって健康被害を受けた方には救済制度が設けられています。

主なVPD

百日咳 ジフテリア 破傷風 ポリオ 麻しん（はしか）
 風しん 水痘 帯状疱疹 日本脳炎 結核
 子宮頸がん Hib感染症 肺炎球菌感染症
 インフルエンザ おたふくかぜ A型肝炎 B型肝炎
 ロタウイルス感染症 髄膜炎菌感染症
 新型コロナウイルス感染症 など

成人に必要なワクチン

- ①小児期に、自分が接種すべき定期接種を打ち損じているもの
 母子手帳などの接種記録を確認しましょう。
- ②幼少期にはワクチンがなくて、打つ機会がなかったもの
 例えば、1968年以前に生まれた人は、定期接種で**破傷風トキソイド**を含むワクチンを接種する機会がありませんでした。
- ③幼少期にワクチンがあり、接種の機会もあったが、現在の必要な回数に満たないもの
 例えば、**麻しん**ワクチンは、定期接種開始当時は1回しか接種していません。麻しん含有ワクチンは2回の接種が必要です。
- ④ワクチンはあったが、当時の定期接種スケジュールによって、現在の必要な回数に満たないもの
 例えば、**風しん**ワクチンは、女性のみ定期接種していた時期があったため、30代後半から50代の男性の抗体保有率が低く、定期的に小流行を繰り返しています。
- ⑤成人のある年齢になってから接種するワクチン
 成人**肺炎球菌**ワクチン（PPSV23）、**インフルエンザ**ワクチンなどは成人の定期接種です。定期接種の対象者は該当する年齢や基礎疾患などで決められています。定期接種ではありませんが、**帯状疱疹**予防に、水痘ワクチンや帯状疱疹ワクチンが50才以降に推奨されています。帯状疱疹に罹患するリスクが高い18歳以上にも帯状疱疹ワクチンを接種できます。
- ⑥社会的な予防（職業など）のために必要なワクチン
- ⑦病気のために必要になるワクチン
- ⑧海外渡航に伴って必要になるワクチン



ワクチンスケジュールの掲載サイト

「こどもとおとなのワクチンサイト」（日本プライマリ・ケア連合会）、「日本の予防接種スケジュール」（国立感染症研究所）等で、最新の情報を確認しましょう。

さいごに

市区町村からの「ワクチン接種のお知らせ」を放置せず、きちんと接種しましょう。

生涯を通して、ワクチンで予防できる病気はワクチンで予防しましょう。



当院の予防接種は予約制です。
 外来受付までお電話ください。